

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年 4月5日

【評価実施概要】

事業所番号	3470103957		
法人名	有限会社 もえぎ		
事業所名	グループホーム もえぎ		
所在地 (電話番号)	広島市安芸区船越南二丁目20-16 (電話) 082-821-2261		
評価機関名	社団法人広島県シルバーサービス振興会		
所在地	広島市南区皆実町一丁目6-29		
訪問調査日	平成21年3月23日	評価確定日	平成21年4月14日

【情報提供票より】(21年2月28日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 16 年 5 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	17 人	常勤 11 人, 非常勤 6 人, 常勤換算	11.55 人

(2) 建物概要

建物形態	併設 / <u>単独</u>	新築 / <u>改築</u>
建物構造	鉄筋 造り	
	3 階建ての	2 階 ~ 3 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	51,000 円	その他の経費(月額)	実費 円	
敷金	有(円)	<u>無</u>		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(150,000 円) 無	有りの場合 償却の有無	<u>有</u> 無	
食材料費	朝食	250 円	昼食	400 円
	夕食	500 円	おやつ	50 円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要(2月28日現在)

利用者人数	18 名	男性	4 名	女性	14 名
要介護1	5 名	要介護2	4 名		
要介護3	4 名	要介護4	3 名		
要介護5	2 名	要支援2	名		
年齢	平均	81.7 歳	57 歳	93 歳	

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人あいクリニック・くすのき歯科
---------	--------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

代表者の理念である「笑顔と温もりのなかで、そして家族として……」のもとで、職員は連携と情報の共有を図りながら、認知症高齢者ケアの普遍化を構築する熱意を持たれていることが伺えた。また、全職員は入居者との日々の関りの中で、「相手の話を聞く」「笑顔でさりげなく言葉をかける」ことに心掛けられており、職員は生き生きとして支援に取り組んでおり、このことによりホームの中では入居者と職員の笑顔が随所に見られ、落ち着いた明るい雰囲気となっている。介護度の高い入居者の積極的な受け入れや、代表者や管理者が広島市の認知症サポーター育成講座の講師も務め、地域全体の介護の質の向上に努められていることなどは、地域の人達や特に高齢者には安心と心強さを感じていただいているようである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価での改善点はなかったが、結果に甘んじることなく職員は理念とともに成長しながら、また育てながら支援に取り組まれており、全職員の優しさとチームワークの良さのもとで質の高いサービスを提供されている。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	事業所全体で自己評価と外部評価は質向上に取り組む機会ととらえて、また職員が実際に質向上に取り組むための動機付けになるよう話し合っており取り組まれている。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は、関連事業所の「小規模多機能型居宅介護もえぎ」と合同で定期的に2ヶ月に1回開催されており、家族等や地域住民、地域包括支援センター及び行政の職員等、幅広い立場の人が参加されている。会議では、事業所からの報告とともに参加者からの多くの率直な意見や要望等を得て、サービスの向上に活かされている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	日頃から家族の方々とのコミュニケーションの場を設け、また何でも言ってもらえる雰囲気づくりのもとで、意見や要望等は前向きに受け止め、発生要因や課題をミーティング等で話し合っており質の向上を目指している。また、家族の立場に立った説明を行い、素早い対応も行われている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域の行事などには積極的に参加しながら人々との関わりや、地域の生活圏にある商店やボランティアの方達等の地域資源と関係を持ったり使いながら、入居者が望む暮らしの実現化に取り組んでいる。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「笑顔と温もりの中で そして家族として……」という事業所の理念のもとで、各ユニットごとの目標を策定し、日々の入居者との関わりの中で職員全員が確認しながら、支援に努めている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者と職員全員が理念をよく理解した上で、具体化していくことを大きな目標としている。また、日々のサービス提供場面において、理念が反映されているかも確認し合っている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の行事には積極的に参加するとともに、地域の公園の清掃にも参加して、地域の方々との交流に努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の意義とねらいについては、運営者、管理者、職員がともに話し合いよく理解した上で自己評価に取り組み、また外部評価についても運営者自ら積極的に取組むことにより、業務改善に活かしている。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月に1回定期的に開催され、家族・地域・行政の参加により幅広く情報を収集し有意義な会議となっている。また、メリハリのある会議内容にするための工夫がされている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	代表者と管理者が、広島市の認知症サポーター養成講座の講師として活動する機会や、運営推進会議を通じて、市の担当者と事業所の実状やケアサービスにおける課題を協議しながら、協働関係を作っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	家族の来訪時には、職員が入居者の状況や家族のことについて話し合っている。他には、担当職員が毎月手紙で利用者の現在の報告をし、緊急を要する場合は電話連絡を行いながら、常に家族との連携を保っている。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の来訪時には出来るだけ時間をつくりながら、意見や要望等を聞き出して業務改善や介護サービスの向上に反映されている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	やむを得ない職員の異動の際には、引き継ぎ期間を十分取り入居者に不安を与えないように配慮がされている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員のスキルアップには積極的に取り組まれ、働きながら学べる機会を多く設け、また、部内外研修には出来るだけ多くの職員が参加受講できるようにされている。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会等の外部研修会などには積極的に参加をして、同業者との交流を深めて情報交換をするなど、サービスの質の向上に役立っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	相談をいきなりの入居につなげるのではなく、本人、家族と十分に話し合いを重ねて事業所の利用に限らず、必要なサービスを検討している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場にもかかわらず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、利用者一人ひとりの日々の生活ぶりを確認し、利用者の意思を尊重しながら学びの心で、支え合いながら感謝の気持ちで接している。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃から本人や家族の希望や意向などをよく把握して、入居者本位の介護サービス計画の作成に努められる体制が整っている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	日頃から本人や家族並びに必要な関係者と話し合いの場を設け、情報の共有を図りながら介護計画を作成している。また、各ユニットの職員間での話し合いも定期的に行い、一人ひとりのケアのあり方、意見・アイデア等を反映させて介護計画を作成している。		
16	37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の見直しは3ヶ月に1回定期的に行われているが、状態の変化等が生じた場合は医師・家族・職員での話し合いにより、介護計画の見直しをおこなっている。また、介護保険の更新時には計画を見直されている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	基本的には、入居者・家族の要望に沿った支援に心がけ、必要に応じて柔軟な支援が行われている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	週に1回は必ず協力医が往診している。必要に応じて、歯科・皮膚科・耳鼻科・整形外科の支援を受けている。また、家族の要望があれば、かかりつけ医の受診も行っている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	本人・家族の意向に沿って、医師・家族・職員の意向を調整確認し、職員全員が意識統一を図り、看取りをおこなっている。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	日頃から入居者の意思を尊厳し、やさしく丁寧な語調や言葉使いにも注意し、介護がなされている。介護記録の保管管理も出来ている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	強制をしない、利用者のペース・体調に合わせてながら、本人の意思を尊重した支援が行われている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	買い物・食事の準備片付けまで個々のレベルに応じた支援を職員と一緒にしている。献立には旬の野菜などを取り入れ、目で楽しみ美味しくゆっくり食べる工夫なされている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的には1日おきの入浴となっているが、一人ひとりの生活習慣やその日の状況や希望に応じた柔軟な入浴支援を行っている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	季節の良い時期は近くの散歩に出かけたり、また、日常的にはホーム内の掃除・食器洗い・料理など本人に応じた役割や楽しみごとの支援をおこなっている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	入居者に合わせて、天候の良い日には散歩、近くのお店への買い物にも出かける努力がなされている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜間以外は施錠をしないで、見守りや声かけで入居者の安全を確保し、施錠をしないケアに取り組まれている。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回の防災訓練が行われており、マニュアルも整備され避難路の確保や、防災対策にも努力されている。また、隣接するマンションの方々にも協力をお願いしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者一人ひとりの食事量・カロリー・水分摂取量など細かく管理され、その人の習慣に合わせた調理・盛りつけなどの工夫されるなどの情報の共有がなされている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花が生けられ、利用者が手作りで作成した壁飾りなどで季節感を取り入れ楽しく暮らせる場が整備されている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には本人の希望を取り入れ、家族と相談のうえ本人が今まで使い慣れた好みの物を持ち込み、居心地よく暮らせるよう配慮がなされている。		

介護サービス自己評価基準

小規模多機能型居宅介護
認知症対応型共同生活介護

事業所名 グループホーム もえぎ (ふたばユニット)

評価年月日 2008 年 12 月 25 日

記入年月日 2009 年 1 月 16 日

この基準に基づき、別紙の実施方法
のとおり自己評価を行うこと。

記入者 職 管理者 氏名 賀来 興治

広島県福祉保健部社会福祉局介護保険指導室

(様式1)

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
1. 理念に基づく運営			
1	<p>地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	<p>「笑顔と温もりの中で、そして家族として・・・」という理念を掲げている、又各ユニットごとに、目標を作っている。その理念や目標を日々感じ考え行動をしている。</p>	
2	<p>理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	<p>理念を事務所に掲げ、実践に向けて、日々取り組んでいる。新人職員が入ってきたので、もう一度全員が理念を再確認し原点に立ち返るようにしていきたい。</p>	<p>半年に一回スタッフミーティングのときに理念の実践に向けて各自、工夫していることや心がけていることを話し合う。</p>
3	<p>家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>	<p>広報誌(もえぎ便り)を発行し配布したり、ホームページ上などに理念や日々の出来事を載せ、誰でも見れる様にしている。月に一度ご家族へ各入居者の日々の様子を手紙で報告している。また認知症サポーター講座にてホームの理念等も話している。</p>	
2. 地域との支えあい			
4	<p>隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	<p>日常的な付き合い等は努めてはいるが、少ない様に思う。また、毎日の買い物等で近隣のスーパーへ出掛け、少しずつであるが、近隣の方から声を掛けて貰う事があるが、現状としては少ない。</p>	<p>継続して声かけ等行い、気軽に立ち寄って頂けるようにする。</p>
5	<p>地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	<p>毎月一度は地域の方々に(ボランティア)来訪してもらったり、地域の祭りや行事などには声を掛けてもらい参加している。準備や片付けなどにも参加している。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6 事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	認知症高齢者100万人キャラバンのサポーターとして地域の方に講演し、地域の方に認知症のことを理解してもらう努力をしている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7 評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の意義をユニットごとのリーダーに理解してもらい、ユニットごとに集まり、リーダーは意義を伝え皆から意見など出し合い作り上げ、具体的な改善に取り組んでいる。		月一回ユニット内で話し合いノートに実践する内容を書き全員が共通の理解をもつようにしている。
8 運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	平成18年度7月より2ヶ月に1回実施している。話し合いを通して率直な意見や助言をもらいサービスの質の向上に取り組んでいる。		
9 市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	認知症サポーターや事業所の見学会等を通して担当者や現場の実情等を、積極的に伝える機会をつくっている。		
10 権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	管理者や職員は地域権利擁護事業や成年後見制度の理解に努め必要と考えられる入居者に活用できる用意がある。		
11 虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者や職員は高齢者虐待についての外部研修や職員会議等において学ぶ機会を持ち職員による虐待の徹底防止に努めている。平成20年11月全体会議で虐待の学習のビデオをみてロールプレイを行った。本気で入居者の気持ちになって熱演したスタッフもいて、逆の立場を理解するきっかけとなった。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約時や契約解除の際、相手の立場に立って確認し、相手側が不安や疑問等を表せるような働きかけと説明を行い、納得を得た上で手続きを始めていく等、個別の配慮や取り組みを行っている。</p>	
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>意見箱を玄関に設置しており、日々入居者や家族からの意見や願い等、管理者や職員に伝えられるよう配慮している。また、日々の運営に反映させている。</p>	
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>月に一度写真と、暮らしぶりや健康状態についての手紙を添えて送っている。また、面会時にも日々の生活等について話している。年に4回ホーム便りを作成し送っている。金銭管理については、毎月おこづかい表に領収書を添えて送付している。</p>	
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>家族と職員が顔の見える関係を築き意見や要望を日々の運営に反映させている。運営推進会議の場や意見箱を設置している。</p>	
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>職員会議やユニット会議等で意見交換を行っている。</p>	
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>随時、話し合いを行い入居者の状況に合わせて職員配置を行っている。</p>	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
18 職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	入居者と職員の馴染みの関係を大切に出来る限り異動は行わず、異動があった場合は職員同士のフォロー等を行いダメージを防ぐ配慮をしている。		
5. 人材の育成と支援			
19 職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所内外の研修を受ける機会を確保し働きながら技術や知識を身につける工夫をしている。		
20 同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の同業者との勉強会や親睦会等の交流会を持ちサービスの質の向上に取り組んでいる。		
21 職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	職員会議を月に1回行いまた、職員間の親睦会も行っている。		
22 向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	運営者は職員個々と会話を持つようにし日頃の努力や具体的な実績や勤務状況を把握しており、向上心を持って働けるように配慮している。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>利用前には、事前訪問もしくは、事前にホームに来ていただき、説明や本人の望むこと、不安などもお話ししながら、受けとめる努力をしている。</p>	
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>利用前には、事前訪問、またはホームに来ていただき、説明や家族の望むこと、不安な事などしながら、受け止める努力をしている。相手の立場に立ち、話を良く聞き受け止め関係を築くことに努め、家族の体験や思いを理解しその家族自身を支える努力をしている。</p>	
25	<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>事業所として出来る限りの対応に努め必要に応じて、他のサービス利用の調整を行っている。</p>	
26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>デイサービス、小規模からの継続入居が多いので、デイサービスや小規模との合同行事等を行い、職員や環境に馴染んで頂く様に取組んでいる。</p>	
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>ホームの理念であるように、家族として入居者と喜怒哀楽を共にし本来の個性や力を引き出し共感出来る様に取り組んでいる。時にスタッフが先回りして仕事(家事)をしてしまうことがある。</p>	<p>スタッフが全部手際よく仕事をしてしまうのではなく入居者の協力を求め一緒に仕事を行うようにする。</p>

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	面会に来て頂くことを、積極的にお願いし家族と一緒に本人を支えるように取り組んでいる。また、入居時に共に支えていくことをお願いし、了承を得ている。		
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	それぞれの家族関係をよく理解しホームの行事など家族にも参加して頂きスキンシップ、コミュニケーションを図りよい関係になるよう努めている。		ご家族の行事への参加が少ないので、ご家族が面会にこられたときなど積極的に声かけをする。
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人、友人からの手紙や、会いに行かれたり、来て頂いたりし今までの関係が切れないように支援している。		
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	性格、認知レベルを配慮して、入居者間の関係の理解に努め、共に暮らしを楽しめるよう支援している。		
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	契約終了後も相談があればいつでも応じ、今までの関係を断ち切らないようにしている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>入居者の希望、意向を大切に把握が困難な場合は本人の視点に立って思いを汲み取るように努めている。</p>	
34	<p>これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>ノートを作り、入居者・家族とこれまでの生活歴などを話し合い、そのノートに書き写し、職員が把握できるようしている。レクリエーションしながら昔のことを思い出し話が出来るよう努めている。</p>	<p>大まかな生活歴は書き出したが表面的な理解にとどまっている。ご家族が面会に来られた時に、もう少し詳しく生活歴を尋ねて入居者をよく知る手がかりをつかんでいきたい。</p>
35	<p>暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている</p>	<p>日常生活の中で本人のできる力、わかる力、その人の持っている可能性を見出すように努めている。</p>	
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>生活習慣を掘り起こし家族からの情報収集を行い、本人、家族の求めているものが提供できるようアセスメントをし、介護計画を作成している。またユニット職員での話し合いを定期的に行い、各入居者のケアのあり方、意見、アイデア等を反省させて介護計画を作成している。</p>	
37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>3ヶ月に1回及び、支・要介護更新時に見直しを行うと共に、状態変化に応じて介護計画の見直しを行っている。</p>	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
38 個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別にファイルがあり、日常の様子や食事・分量・排泄など記録している。[ふたばノート]を作り情報を共有している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人や家族の要望に向かい合い、その時々に必要な支援を出来る限り柔軟に対応するよう取り組んでいる。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	お茶や音楽、書道クラブ等を通して地域の人々の力を借り、協力しながら支援をしている。また、中学生の職場体験や、中学生の大正琴や日舞に発表など積極的に受け入れ、相互に協力をしている		
41 他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	現在は活用していないが、必要に応じて他のサービスを活用する用意はある。		
42 地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	認知症アドバイザーの講演をする等、認知症の人を地域で支える支援をしている。また、運営推進会議のメンバーとして、地域の現状の話や、要望、アドバイスをもらっている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
43 かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	週に1回協力医の定期的往診がある。本人、家族の希望があれば、馴染みの医師による継続的な医療を受けて頂いている。		
44 認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	協力医は認知症専門医ではないが、同地域に専門医があり、相談しながら診断や治療を行っている。		
45 看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	法人内で看護職員を確保し健康管理や医療的な支援を行っている。		
46 早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院時は、家族の了解を得た上で本人に関する情報提供を行っている。入院中も面会に行く等し関わりを継続し、病院関係者とも連絡を取り、短期間での退院に繋がるように努めている。		
47 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	契約時、重度化した場合の指針を説明している。重度化した場合、早い段階で本人、家族の意向を確認しケア関係者、かかりつけ医を交え対応方針を話し合い共有化を図っている。		
48 重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	終末期を安心して暮らせるように職員全体で、対応が可能なこと、困難なこと、不安なことを率直に話し合い、同じ思いで家族やかかりつけ医とも連携を取りながら支援に取り組んでいる。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
49	<p>住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		
<p>・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p>			
<p>1. その人らしい暮らしの支援</p>			
<p>(1) 一人ひとりの尊重</p>			
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>		
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>		
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>		<p>ご自分の意見をはっきり言える方の希望はすぐに実行しているが、意思表示の難しい方に対しても、ご本人の状態や表情などを読み取りできるだけ希望に添えるように努める。</p>
<p>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>			
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
54 食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理や片付けなど職員と一緒にやっている。また、食事と一緒にとり、楽しい雰囲気になるよう心がけている。		献立を考えて頂いたり、スタッフと協力しながら料理が出来上がる達成感を感じて頂きたい。
55 本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	状況に合わせて日常的に楽しめるよう職員側から働きかけてはいるが、遠慮されるときがあるので、出来る限り配慮したい。		体調や医学的に難しい事があるができる限り本人の希望を取り入れるようにしたい。
56 気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排尿、排便チェックを行い、排泄パターンを把握し、トイレで排泄が出来るように努めている。下着・リハビリパンツ・尿取りパット等日中、夜間、外出時に応じて使い分けている。		
57 入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴の時間は午後からである。バイタルチェックを行い、一人ひとりの体調に合わせて無理強いせず、清拭など行っている。入浴を楽しめるよう、湯の温度などなるべく希望に沿うように心がけ、声かけや必要に応じて介助を行っている。また、季節に応じてゆず湯や菖蒲湯などもしている。		夜間など本人が希望される入浴時間に入れるよう心がけたいが、現状では難しい面がある。
58 安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	その時々状況に応じて、ベッドで休んだり、フロアでも休めるようにソファを置き、何処でも休んで頂けるようにしている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59 役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	各入居者の生活歴を把握した上で、食器洗いや洗濯物干し、掃除など役割を持って頂いたり、リハビリ体操のリーダー役となってもらったり入居者のみで自主的に行っている。季節の行事や誕生日会等、カレンダーに書いており、楽しみが共有出来るよう務めている。		昼食夕食前の短い時間に歌を歌ったり簡単なゲームをしているが声がよく出て口腔体操にもなるので継続していきたい。散歩、買い物などの外出の機会を多く取り入れるように努める。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	重度の認知症の方が多く、なかなか金銭管理や支払い等をしてもらう機会がなく、職員が代行することが多い。必要に応じて出来る方は自分で支払いをしてもらっている。		
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	買物や散歩等一緒に出掛けるように心がけているが、体調や状況によって偏りがある。		出来る限り散歩や買い物へ出かけるようにしているが、まだまだ十分とは言えない。
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	近所の祭りや年1回旅行に出掛けたり、家族の方と出掛けられるよう支援している。個別外出も行っている。		家族により偏りが大きい。手紙や面会時において願う
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望に応じ、電話で自由に話ができるようにしており、職員は席を外すようにしている。手紙も自由にやり取りができるように支援をしている。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	いつでも訪ねられるよう出入りは自由になっている。訪問されたときには、居室にて過ごされ、職員がお茶を出し、ゆっくり過ごしていただけるよう努力している。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全体会議で職員の意思統一をしている。また、研修にも参加し日々拘束は行わない事を職員全体が認識してケアにあたっている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
66 鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜間のみ防犯上、玄関を施錠しており、日中はドアチャイムを取り付け自由に出入りが出来るようにしている。		
67 利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	入居者の動きを見守りやすい位置におり常にサインを察知するように努めている。		
68 注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	注意の必要な薬は職員の控え室で保管している。日常使用する洗剤等も目に付かない所へ保管している。		
69 事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	ヒヤリハット報告書を作り職員全員が目を通すようにしている。事故については全体会議でも話し合い再発防止に努めている。		毎月の全体会議において勉強会を行う。
70 急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	緊急時対応マニュアルや会議を開いているが、実際の場面では生かせていない。		毎月の全体会議において勉強会、訓練行う。
71 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回防火訓練を行っている。その時同ビルの他事業所の方も参加して頂き、避難誘導の協力を得ている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
72 リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	考えられるリスクについては、早目に家族と話し合い納得と理解を得て自由に生活して頂くように支援している。また、状況変化に応じて繰り返し話し合いを行っている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73 体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	一人ひとりの顔色や様子に注意し、少しでも変化があればバイタルチェックを行い、看護師・主治医に相談している。記録としてケースに残しているため情報は共有できている。		
74 服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの個人ケースに薬の内容や副作用の説明が書いてある物を閉じている。新しい薬等把握できていないこともある。		新しい薬等、職員が把握出来るようにノートに書き、情報を共有出来るようにする。
75 便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	便秘気味の方には自然排便が出来るようにきな粉牛乳等飲み物を工夫や、腹部をマッサージする等し対応している。水分を多く取るように心がけている。繊維質のものを食事にとり入れている。全体会議においても便秘に対する原因や及ぼす影響等について話し合いを行っている。		
76 口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後に口腔ケアの声かけを行っている。困難な方には状態に合わせて職員が介助している。		口腔ケアの声かけをしても、されない方については声かけを色々工夫してみる。
77 栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食、食事量のチェック、水分量のチェックを行っている。また、体調や習慣によっても調理方法、盛り付けを工夫している。毎週体重測定を行っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症対応マニュアルがあり、予防接種や外出後、食事前のうがい、手洗いをを行うように支援しているが、食事前のうがい、手洗いは声かけなど行うが個人差がある。		うがいや手あらいを徹底して出来る様に声かけを行う。
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食材等はその日に買って来ており、新鮮なものを選んで買物をしている。手ふき等はハイター消毒や煮沸消毒を行っている。		ハイター消毒や煮沸消毒を徹底して行い衛生管理に努める。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関には、季節の花を植えたり、季節に関するものを置いている。入り口も開けてあり、外出から帰ったときには休憩できるようにベンチを置いている。		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花を飾ったり、季節に関するものを置いている。犬も飼育している。		使用していない車椅子や介護用品を納めるようにし空間を広く取り安全に過ごせるようにする。
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファやテーブル、畳などの空間があり入居者同士で話をされたり、思い思いの場所で過ごすことができる。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
83 居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には使い慣れたものを置き、過ごして頂いているが、たまに混乱されることもあるので一人ひとり配慮している。		
84 換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	一人ひとりにあった温度調節を行ったり、声かけなど行っている。洗面台やトイレ等定期的に掃除を行い、臭いのないように努めている。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85 身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりが取り付けられている。入浴時には介護用具を利用し、できる限り自分の力でできるようにしている。		
86 わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	一人で出来ることは時間がかかっても行えるように見守りを行っているが、介助してしまうこともある。プライドの高い方に対し出来ていないことでも手助けできずにいる。		入居者一人ひとりの出来る力を把握して出来る事と出来ない事を見極めてケアを行う。出来ないことを毎日の声かけや対応で手助けし自立して生活できるようにする。
87 建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	ベランダを利用して、季節の花を一緒に植えたり、野菜を育てたりしている。季節によってはそつめん流しをしたり、イルミネーションを飾っている。また、日光浴やおやつ時間に外に出ている。		

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

介護サービス自己評価基準

小規模多機能型居宅介護
認知症対応型共同生活介護

事業所名 グループホーム もえぎ (みつばユニット)

評価年月日 2008 年 12 月 25 日

記入年月日 2009 年 1 月 16 日

この基準に基づき、別紙の実施方法
のとおり自己評価を行うこと。

記入者 職 管理者 氏名 福岡 真由美

広島県福祉保健部社会福祉局介護保険指導室

(様式1)

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	<p>「笑顔と温もりの中で そして家族として・・・」という理念を掲げている、又各ユニットごとに、目標を作っている。その理念や目標を日々感じ考え行動をしている。</p>	
2	<p>理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	<p>月一度の全体会議、ユニットごとの会議や随時の話し合いにおいて情報交換など行い、理念を具体化して、共有し、一人ひとりに寄り添ったケアを目指して取り組んでいる。</p>	
3	<p>家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>	<p>広報誌(もえぎ便り)を発行し配布したり、ホームページ上などに理念や日々の出来事を載せ、誰でも見れる様にしている。月に一度ご家族へ各入居者の日々の様子を手紙で報告している。また認知症サポーター講座にてホームの理念等も話している。</p>	
2. 地域との支えあい			
4	<p>隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	<p>日常的な付き合い等は努めてはいるが、少ない様に思う。また、毎日の買い物等で近隣のスーパーへ出掛け、少しずつであるが、近隣の方から声を掛けて貰う事があるが、現状としては少ない。</p>	<p>継続して声かけや買物など外出の際、あいさつを行い気軽に立ち寄って頂けるようにする。</p>
5	<p>地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	<p>毎月一度は地域の方々に(ボランティア)来訪してもらったり、地域の祭りや行事などには声を掛けてもらい参加している。準備や片付けなどにも参加し反省会(打上げ)などにも参加している。</p>	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	認知症高齢者100万人キャラバンのサポーターとして地域の方に講演し、地域の方に認知症のことを理解してもらおう努力をしている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の意義をユニットごとのリーダーに理解してもらい、ユニットごとに集まり、リーダーは意義を伝え皆から意見など出し合い作り上げ、具体的な改善に取り組んでいる。		意義は理解出来ているが、外部評価の結果を全職員が把握出来ていないのでユニット内で話し合いを行い具体的な改善に取り組むように努める。
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	平成18年7月より2ヶ月に1回実施している。話し合いを通して率直な意見や、助言をもらいまた運営推進会議でモニターしてもらうなど運営推進会議と評価を結びサービスの向上に取り組んでいる。		
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	認知症サポーターや、事業所の見学等を通して、担当者と現場の実情等を積極的に伝える機会をつくり、直面している運営、サービスの課題に向け協議し共に取り組んでいる。		
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	管理者や職員は地域権利擁護事業成手後見制度の理解に努め必要と考えられる利用者に活用できる用意がある。		
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者や職員は高齢者虐待防止についての外部研修や職員会議等において学ぶ機会を持ち職員による虐待の徹底防止に努めている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約時や契約解除の際、相手の立場に立って、不安や疑問等を表せるような働きかけと説明を行い、納得された上で、手続きを始めていく等、個別の配慮や取り組みを行っている。</p>	
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>意見箱を玄関に設置している。日々、利用者や家族からの意見や、願いなどを管理者や職員へ伝えるように配慮している。また、日々の運営に反映させている。</p>	
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている</p>	<p>月に一度、写真と日々の様子や、健康状態についての、手紙を添えて送っている。年4回ホーム便りを作成し家族へ送っている。また、面会時にも日々の生活についてお話ししている。金銭管理については、毎月、おこずかい表に領収書を添えて送付している。</p>	
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>ご家族と職員が顔の見える関係を築き意見や要望を、日々の運営に反映させている。運営推進会議の場や、意見箱を設置している。</p>	
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>全体会議、ユニット会議などで意見交換を行っている。</p>	
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>随時、話し合いで利用状況に合わせて職員配置を行っている</p>	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
18 職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	入居者と職員の馴染みの関係をととても大切に出来る限り異動は行わず、異動があった場合、職員同士のフォローなど行いダメージを防ぐ配慮をしている。		
5.人材の育成と支援			
19 職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所内外の研修を受ける機会を確保し働きながら技術や知識を身につける工夫をしている。		
20 同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の同業者との勉強会や親睦会等の交流会を持ちサービスの質の向上に取り組んでいる。開設者、管理者は交流会の役員を務めている。		
21 職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	事業所全体での親睦会が年に3回はあり、職員全体や各ユニットでの会議を月に一回行い、職員間の親睦を深めている。また、職員がくつろげる場を確保している。		
22 向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	運営者は職員個々と会話を持つようにし、日ごろの努力や具体的な実績や勤務状況を把握しており、向上心を持って働けるように配慮している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>利用前には、事前訪問もしくは、事前にホームに来ていただき、説明や本人の望むこと、不安などもお話ししながら、受けとめる努力をしている。</p>	
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>利用前には、事前訪問、またはホームに来ていただき、説明や家族の望むこと、不安な事などをしながら、受け止める努力をしている。相手の立場に立ち、話を良く聞き受け止め関係を築くことに努め、家族の体験や思いを理解しその家族自身を支える努力をしている。</p>	
25	<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>事業所として出来る限りの対応に努め、必要に応じてサービス利用の調整を行っている。</p>	
26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>デイサービス、小規模からの継続入居が多いので、デイサービスや小規模との合同行事等を行い、職員や環境に馴染んで頂く様に取り組んでいる。</p>	
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>ホームの理念であるように、家族として入居者と喜怒哀楽を共にし本来の個性や力を引き出し共感出来る様に取り組んでいる。</p>	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
28 本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	面会に来て頂くことを、積極的にお願いし家族と一緒に本人を支えるように取り組んでいる。また、入居時に共に支えていくことをお願いし、了承を得ている。		毎月の利用料支払い時を利用して少しの時間で良いので面会をして帰って頂くように積極的に働きかける。
29 本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	それぞれの家族間係をよく理解しホームの行事など家族にも参加して頂きスキンシップ、コミュニケーションを図りよい関係をになるよう努めている。		面会時には一緒に散歩等、一緒に過ごす時間を持てる様に声かけ支援をする。
30 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人、友人からの手紙や、会いに行かれたり、来て頂いたりし今までの関係が切れないように支援している。		
31 利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	性格、認知レベルを配慮して 利用者間の関係の理解に努め、共に暮らしを楽しめるよう支援している		
32 関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	契約終了後も相談があればいつでも応じ、今までの関係を断ち切らないようにしている。退所後も、時間があれば病院や他施設へ面会に行っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>入居者の希望・意向を大切にし、把握が困難な場合は、本人の視点に立って思いを汲み取るように努めている。</p>	
34	<p>これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>職員が本人や家族と馴染みの関係を築きながら日々の生活の中で把握に努めている。</p>	
35	<p>暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている</p>	<p>日常生活の中で本人のできる力、わかる力、その人の持っている可能性を見出すよに努めている</p>	<p>日々変化する状況を正確に把握し個別の対応に努める。</p>
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>生活習慣を掘り起こし家族からの情報収集を行い、本人、家族の求めているものが提供できるようアセスメントをし、介護計画を作成している。またユニット職員での話し合いを定期的に行い、各入居者のケアのあり方、意見、アイデア等を反省させて介護計画を作成している。</p>	
37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>3ヶ月に1回の定期的な見直しを行うと共に、状態変化時や介護保険更新時には、介護計画の見直しを行っている。</p>	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録は事実やケアの気づきを記載しており、記録を根拠に職員間のケアに活かし、介護計画の見直しにも活かしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人や家族の要望に向かい合い、その時々々に必要な支援を、出来る限り柔軟に対応するよう取り組んでいる。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	お茶や音楽、書道クラブ等を通して地域の人々の力を借り、協力しながら支援をしている。また、中学生の職場体験や、中学生の大正琴や日舞に発表など積極的に受け入れ、相互に協力をしている		
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	現在は他のサービスを活用していないが、必要に応じて利用は考えている。		
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	認知症アドバイザーの講演をする等、認知症の人を地域で支える支援をしている。また、運営推進会議のメンバーとして、地域の現状の話や、要望、アドバイスをもらっている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
43 かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	週に1回、協力医の定期的な往診があり、本人、家族の希望があれば馴染みの医師による継続的な医療を受けて頂いている。		
44 認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	協力医は認知症専門医ではないが同地域に専門医がおり、相談をしながら診断や治療を行っている。		
45 看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をして	法人内に看護職員を確保し健康管理や医療的な支援を行っている		
46 早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院時は家族の了解を得た上で、本人に関する情報提供を行い、入院中も面会に行き関わりを継続し、病院関係者とも連絡を取り、短期間での退院につながるよう努めている。		
47 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	契約時、重度化した場合の指針を説明している。重度化した場合、早い段階で本人、家族の意向を確認し、ケア関係者、かかりつけ医を交え、対応方針を話し合い共有化を図っている。		
48 重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	終末期を安心して暮らせるように、職員全体で対応が可能なこと、困難なこと、不安なことを率直に話し合い同じ思いで、家族やかかりつけ医とも連携を取りながら支援に取り組んでいる。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
49	<p>住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		
<p>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>			
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>		
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>		
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>		
<p>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>			
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>		
55	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>		
56	<p>気持ちよい排泄の支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している</p>		
57	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>		
58	<p>安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している</p>		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59	<p>役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>		<p>日光浴、散歩など取組んでいるがもっと多く出来るよう支援する。</p>

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人に合わせて、自分でお金を所持して頂いたり、職員と共に買物に出かけてお金を払う機会を作っている。		
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	入居者の希望を聞き集団での散歩や、個別に外出している。		買物や散歩などより多く出来るように努める。
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	入居者の希望を聞き一泊旅行に出かけている。また、個別に家族の人と一緒に出来る限り、食事等へ出かけるように支援している。		
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望に応じ電話や手紙のやり取りをなど自らできるように支援している。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	ホームは、家族や知人等の出入りは自由にしており、家族的な雰囲気居心地よく過ごせるように努めている。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全体会議で、職員の意思統一をしている。また、研修にも参加し、日々拘束は行わないことを職員全員が意識してケアに取り組んでいる。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
66 鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜間のみ防犯上、玄関を施錠している。日中は開放し自由に出入りできるようにしている。		
67 利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	入居者の動きを、見守りやすい位置におり常にサインを察知するように努めている。		
68 注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	注意の必要な物品（薬や洗剤等）は職員控え室で保管しており、刃物は調理時に出すようにしている。		
69 事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	ヒヤリハットしたことを連絡ノートに書き、事故については、全体会議で話し合い、再発防止に努めている。		
70 急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	緊急時の対応マニュアルや勉強会をひらいているが実際の場面で活かされていない。		勉強会を定期的に行い実際の場面でいかせるようにする。年に一回は救急救命の研修を行う。
71 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回の防災訓練を行っている。その時、同ビルの他事業所の方にも参加して頂き避難、誘導の協力を得ている。また、隣のマンションの方々にも協力をお願いしている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
72	<p>リスク対応に関する家族等との話し合い</p> <p>一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている</p>	<p>予測されるリスクについては、早目に家族と率直に話し合い、納得と理解を得て自由に生活して頂くように支援をしている。また状況変化に応じて繰り返し話し合いを行っている。</p>	
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73	<p>体調変化の早期発見と対応</p> <p>一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている</p>	<p>常に入居者の顔色や様子に注意し少しでも変化がみられるとバイタルC Kし必要に応じて主治医に連絡している</p>	
74	<p>服薬支援</p> <p>職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	<p>全入居者の薬の内容や副作用の説明が書いてあるものを全職員がすぐ見れる所に置いて、把握しているが、新しい薬等把握できてないことがある。</p>	<p>新しい薬等、職員が把握できるように書込み、情報を把握できるようにする。</p>
75	<p>便秘の予防と対応</p> <p>職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる</p>	<p>1日1200ml以上の水分摂取に心がけ、食事や散歩、レクリエーション等を行い、自然排便に努めている。全体会議においても便秘に対する原因や及ぼす影響等について話し合いを行っている。</p>	
76	<p>口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている</p>	<p>毎食後口腔ケアの声かけを行い困難な場合は、状況に合わせて支援している。</p>	
77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>毎食の食事量C Kと体調、習慣によって調理、盛り付けを工夫している。毎週体重測定や水分量1200mlを目安に、水分摂取に努めている。</p>	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症対策マニュアルが有り予防接種や外出後の手洗い、うがいを積極的に行うように支援している。研修に参加して知識を得ている。		
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	使用する用具は、熱湯で消毒している。その日に使うものは、その日に買い物し、調理している。		
2.その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関には季節の花を植え、扉に常にあけておき外出から帰った時には休憩できるようにベンチを配置している。		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花、小物など飾り金魚、犬を飼育し、ソファ、テーブル等設置してある。		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファ、テーブル、畳の部屋と思い思いに過ごせるよう配置してある。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好み のものを活かして、本人が居心地よく過 せるような工夫をしている	家で使い慣れた生活用品や衣類、写真、アルバム 等持ち込んでいただき自分らしく過ごせるよう にしている。		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよ う換気に努め、温度調節は、外気温と大き な差がないよう配慮し、利用者の状況に応 じてこまめに行っている	随時の換気、リビングにはガスストーブと加湿器 を置き、各部屋にはエアコンを設置し温度調整を 行っている。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活か して、安全かつできるだけ自立した生活が 送れるように工夫している	要所、要所には手すりが取り付けられ、浴室浴槽 には介護用品を利用し自力で入浴できるよう にしている。個々に合わせて生活がしやすい道具を手 作りで作っている。		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱 や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工 夫している	部屋を間違える入居者には、名前を自分で作って 掛けている。フローアには入居者の書いた習字や 絵が貼ってある。		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽し んだり、活動できるように活かしている	玄関やベランダには、花を植えベンチやテー ブルを設置し日向ぼっこ出来るようにしている。ま た、園芸や洗たく干し等も入居者と共に行ってい る。		

( 部分は外部評価との共通評価項目です)